

議 事 録

町田商工会議所

作成者：指導課 三堀

会議名	令和3年度町田商工会議所 経営発達支援計画評価会議	
開催日時	令和4年2月22日(火)	18:00~19:20
開催場所	WEB(オンライン)	
出席6人 (順不同・敬称略)	(委員4名)前田進、猿山康継、福島昭宏、長谷川英伸(オブザーバー:町田市2名)濱口大樹、遠藤菜都乃 / (事務局3名)林忠司、日下啓太、三堀陽平	

議 事 内 容	<p>1. 開会(司会:三堀)</p> <p>2. 委員長挨拶 ・(株)マネジメントコア前田の前田進委員長から挨拶</p> <p>3. 議題 (1) 令和3年度実施状況について 【事務局】 ・実績一覧表を基に実施内容について概要を説明し、今年度トピックスとして次の3点については詳細に説明した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ I-6「商品試食・評価」 ◆ I-7-②「プレスリリース支援」…「看板商品プロデュース事業」として資料3を用いてまとめて説明。15事業者の看板商品に対して、商品力の向上と販路の改善・開拓支援の結果を報告した。 ◆ I-7-③「IT個別支援」…25事業者からデジタルの苦手意識を払拭させ、実践力と自信が身についた。当事業は日本商工会議所から事業表彰を受けるなど外部からの評価も得る結果となった。 <p>【委員からの質問に対する事務局回答 Q&A】</p> <p>Q1. 事業者支援において、コロナ禍で対面を控えるよう促されているが、商工会議所では何か対策はしているか。</p> <p>A1. Zoomによるオンライン相談も受けられるよう、職員レベルや設備の環境を整えた。実際に簡単な決算相談では画面共有にて指導が可能であり、実績も増えつつある。</p> <p>Q2. I-5-①にて1社あたりの指導頻度が増えているが、課題解決と頻度数との相関関係はあるか。</p> <p>A2. 必ず比例するものではないが、少ないよりは定期的に接触し、状況ヒアリング、アドバイスをを行うことで解決に向かう場合が多い。</p> <p>※委員コメント:事業者のレベルと課題内容によっては、回数に比例するとは言い難い。</p> <p>Q3. 決算書データの収集をおこなっているとあるが、どのように活用されているか。</p> <p>A3. 全国的にデータの一部を中小企業庁へ報告しており、当所も報告をおこなっている。個社支援現場では、まず、売上・利益の状況を把握し、経営相談にあたっている。</p>
------------------	--

【委員】※実施内容についてのコメント

- ・看板商品プロデュース事業は、経営コンサルタントが手伝っても介入できない部分までサポートしている事業であり大きく評価する。商工会議所だからこそできた事業ではないか。
- ・プレスリリースなど発信力は店舗にとって苦手、不得手な面であり、継続サポートしてほしい。その媒体として、YouTube などの動画利用も検討してはどうか。
- ・コロナ禍だからこそ非対面でモノを売る環境を整えた事業として看板商品プロデュース事業や IT 個別支援は評価されるものであり、7 の評価 C は B に引き上げてよい。IT 個別支援の実績については、目標数を数倍超えるものである。
- ・食品を急速冷凍し、無人販売にて展開している事例について共有。コロナ禍に合わせた事業転換を図った、モデルとなるような事業所の事例集などを作成してはどうか。

【オブザーバー】

- ・地域経済動向調査の報告について情報共有を求める。産業振興計画（5ヶ年）を策定する際や今後市内事業者への同様な調査をする際の参考資料としたい。

4. 閉会（事務局）

次回会議

未定